闘士淫舞

～爆乳美少女達に中出し三昧～

「ではこの私…賈ク文和がご奉仕をさせていただきます」
「時に曹操様……赤壁の戦いにて一部部隊の運用を私にお任せいただきたいのですが…」
どき
どき
「さて…どうしたものかな」

〈私はまだ天下を諦めてはいない…！
兵力がある程度あればきっかけを掴んでみせる〉
〈そのためには曹操孟徳に気に入ってもらう必要がある…〉
〈幾多の男を虜にしてきた
私のテクを味わってもらうぞ、曹操孟徳！〉
ギュプッ♡

〈さすが覇王曹操……なんて強いオスの匂い……！〉
「じゅるっ♡ぬぷぷぷっ♡ぬぽっぬぽっ♡」
ぬぷぷっ…
ぺろっ
〈んっ♡このちんぽ、私がしゃぶってきた凡百のちんぽと格と違うぞっ〉

「ぬぶっレんぶぶっレんぉレじゅろろろっレレ」
「賈ク……お前中々フェラが上手いな。練習する機会が多かったのだろうな……フフ」
「はっレお褒めいただき光栄ですっレ」
〈もう私は数え切れない男たちと寝てきた…天下を取ることでしか私の心は慰められることはないのだ…〉
〈曹操孟徳…お前はそのための踏み台になってもらうぞ！〉
ぢゅぞぞっ♥
ヌルレ
ヌルレ

「んぶっ!?んおおぉっ♡♡」
ビュウッ
ビュッ
ビュッ

「じゅるるっ♡んぶぉ♡ザーメンっ♡曹操様のザーメンっ♡」
「気に入った…さっきの件だがウチの生徒を20人ほど回してやろう」
「んぉ……っ♡ほおぉぉ♡ありがたきしあわせっ……♡♡」
(だめぇ♡なんだこれはっ♡
満たされるぅ♡曹操様のザーメン美味しすぎるぅ♡)
曹操様のおちんぽにずっとずっとご奉仕したいっ♡
もう天下なんてどうでもいいっ♡曹操様の肉便器にしてほしいっ♡
「ぬぽっぬぽっぬぽっ♡んぶぶっ♡じゅるっ♡」
ゴキュッ
ゴキュッ
ぶるっ♡
ぶるるっ♡
「俺の覇王の氣にあてられたか……
賈ク文和、所詮その程度のメスだったか」

「ではこの私…賈ク文和がご奉仕をさせていただきます」
「時に曹操様……赤壁の戦いにて一部部隊の運用を私にお任せいただきたいのですが…」
どき
どき
「さて…どうしたものかな」

〈私はまだ天下を諦めてはいない…！
兵力がある程度あればきっかけを掴んでみせる〉
〈そのためには曹操孟徳に気に入ってもらう必要がある…〉
ギュプッ♡
〈幾多の男を虜にしてきた
私のテクを味わってもらうぞ、曹操孟徳！〉

〈さすが覇王曹操……なんて強いオスの匂い……！〉
「じゅるっ♡ぬぷぷぷっ♡ぬぽっぬぽっ♡」
ぬぷぷっ…
ぺろっ
〈んっ♡このちんぽ、私がしゃぶってきた凡百のちんぽと格と違うぞっ〉

「ぬぶっレんぶぶっレんぉレじゅるるるっレレ」
「賈ク……お前中々フェラが上手いな。練習する機会が多かったのだろうな……フフ」
「はっレお褒めいただき光栄ですっレ」
〈もう私は数え切れない男たちと寝てきた…天下を取ることでしか私の心は慰められることはないのだ…〉
〈曹操孟徳…お前はそのための踏み台になってもらうぞ！〉
ぢゅぞぞっ♥
ヌルレ
ヌルレ

「んぶっ!?んおおぉっ♡♡」
ビュウッ
ビュッ
ビュッ

「じゅるるっ♡んぶぉ♡ザーメンっ♡曹操様のザーメンっ♡」
「気に入った…さっきの件だがウチの生徒を20人ほど回してやろう」
「んぉ……っ♡ほおぉぉ♡ありがたきしあわせっ……♡♡」
〈だめぇ♡なんだこれはっ♡
満たされるぅ♡曹操様のザーメン美味しすぎるぅ♡〉
曹操様のおちんぽにずっとずっとご奉仕したいっ♡
もう天下なんてどうでもいいっ♡曹操様の肉便器にしてほしいっ♡〉
「ぬぽっぬぽっぬぽっ♡んぶぶっ♡じゅるっ♡」
ゴキュッ
ゴキュッ
ぢゅるっ♡
ぢゅるる♡
「俺の覇王の氣にあてられたか……
賈ク文和、所詮その程度のメスだったか」

成都学園では地域の有望な闘士の「青田刈り」を行っている。
この戦乱の世を勝ち抜くため、手段を選んでなどいられない。
ぬぷぷっ…
んっ…♡
（とは言ってみたものの…）
（趣味と実益を兼ねれるなんて私にとっては最高ですね…♡）
（お姉さんっ…お姉さんの中に入っちゃうよぉ…）

「ふふっ…闘士たるもの、この程度で参ってしまってはダメですよ」
（っ……♡いたいけなショタチンポ最高……♡）
（こんなビクビクさせて…今回も楽しめそうですね…♡）
んふっ♡
ペろっ♡
ビクッ
ビクッ

「んっ♡ふっ♡んうぅうっ♡♡」
「あぁ…！あついっ、僕のおちんちんが溶けちゃうよぉ…」
（何も知らない子の操を蹂躙するこの快感っ…♡）
（初めてのおまんこにおちんちんをぱんぱんした戸惑いっ♡）
（それら全てが可愛いっ♡犯したくなってしまうっ♡）
んっ♡
んっ♡
ぶるぅ♡
ぶるんっ
ぶるんっ
パーンッ♡
パーンッ♡
パーンッ♡
パーンッ♡

「あっ♡んぉっ♡」
「きてるっ！なにかきちゃうッ！！！」
「我慢してないでいいんですよ…♡」
はッ♡
あッ♡
ぶるんッ
ぶるんッ
パーンッ♡
パーンッ♡
パーンッ♡
パーンッ♡
「お姉さんの膣中にたくさん出して下さいっ♡」
（ザーメンっ♡ショタザーメンはやくっ♡♡）

「くっ……ん♡っ♡」
ビュッ
ビュルッ

「ふっ…♡ふっ…♡たくさん出せましたね…♡よくできました♡」
「もしキミが成都学園に来てくれるなら、これからも定期的に会うことを約束しましょう…♡」
「いくっ！僕絶対に成都学園へいくからぁ！また会ってよお姉さん！」
はぁ♡
はぁ♡
ダラ
ダラ
にちっ♡
ぬるぅ…♡
〈ショタセフレ一匹確保っ♡
この調子でドンドン増やしていきましょうかね…♡〉

「まさか身寵ってしまうとは……この趙雲子龍、一生の不覚……」
「一生の不覚って……毎日僕と中出しセックスしてたら当たり前じゃない？」
んっ♥
ぬぷっ
ボテッ♥

「あんっ♡ふぅん♡♡」
「こんな母乳出すようになっちゃったしね？」
あッ♡
ズッ♡
ぷるっ♡
ぺちゃッ♡
もみ♡
もみ♡
「らってっ♡貴方のおちんぽが一番よかったんですっ♡」
「お願いです、早く動いてくださいっ♡おまんこ疼いちゃってますからぁ♡」

「あっ♡んんっんっ♡ふぁっ♡」
ズッ♡
ズッ♡
んっ♡
「この前は闘士としてのなんたるかを語ってたのに…」
「こんな身体じゃ戦えないけどもういいの？」
ぶにぶんっ♡
ぶにぶんっ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡

「ほぉっ♡んぉ♡ぅぅん♡♡」
「本当は闘士とかどうでもいいんですっ♡」
「こうやって恋人みたいにおまんこズボズボされてるだけでっ♡♡」
ぐッ♡
んふっ♡
「こんなだらしないボテ腹とおっぱいした恋人はいらないよ…」
「まぁ中出し放題のオナホになってくれるなら会ってあげるけど」
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡

「んぉ♡生意気言ってすみませんでしたっ♡オナホっ、オナホでいいのでザーメンください♡」
「闘士としての使命よりボテ腹セックスを選んだ雌豚子龍にザーメン恵んでください♡♡」
んっ♡
んぐッ♡
おッ♡
「そこまで頼まれたらイヤとは言えないなぁ…」
「うっ、雌豚オナホマンコに出ろぅ！」
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡

「くおぉぉぉぉぉぉんっぉんっぉんっぉぉぉぉぉぉ

「んおおぉ……♡ふぁ♡」
「あっ……ザーメン染みこむぅ……♡」
はぁ♡
はぁ♡
あはぁ♡
ぞくぅ
ぞくぅ
ぞくぅ
「ふふっ、汁まみれのひどい顔だなあ…」
「今度は呼び出したらすぐ来てね、オナホのお姉さん♪」
ダラ
ダラ
ダラ
ダラ
ダラ

いつも通りの朝。今日もいい天気だね！
汗かいちゃったとりあえずお風呂入ってさっぱりしよう！パジャマはぽいぽいーと
意気揚々とお風呂へ馳せ参じるあたしを制したのはママだった。
「はくふ～お風呂入る前に公瑾くん起こしてあげて～」
「え～こーきんまだ寝てるのぉ～」
あたしのが早起きって珍しいこともあるもんだね…。むふふ、ちょっと思いついちゃった！
「んぉ……なんか下半身が肌寒……って伯符！？」
「おはよ～こーきん！朝からシモの方も元気ですなぁ～」
あたしは飛び起きたこーきんを見下ろしながら、こーきんのムスコをこすこすしていく。
「それは生理現象でっ…！って一体朝っぱらから何してるんだ！？早くどいてくれ！」

「どかない！ニーキンを起こすために使ったカロリーをもらえるまで、あたしは戦う所存なのであります！」
「わけわかんないこと言わないでくれよ……」
「つまり、朝のおかずを一品あたしに献上するであります！」
「ええ…イヤに決まってるだろ、ウチの学校はただでさえ消費が激しいんだぞ」
ふふっ♥
「そんなケチな事言うニーキンには……えいっ！」
「うぅっ……伯符、そこは……！くっそれ以上は……」
ニーキンの反応を満足気に見守りながら、あたしは寸前で動きを止める。
ジュッ♥
ジュッ♥

「えっ……」
「ふふん、イかせて欲しかったらおかずちょうだいっ！」
「伯符……キミはホントいい性格してるな……」
「えっホントっ？いやあこーきんに褒められると照れますなあ」
「……もうおかずでもなんでもあげるから早く済ませてくれないか……」
「がってんしょうちっ！えいっえいっやぁっ」
「うっ……はぁっ……くっ、でるっ！」
ぺろっ

んっ♥
ペロッ♥
ぱくっ♥

「さすがこーきんの一番搾り♡こゆーいのが出てますなあ♡」
「さーてこーきんのおかずももらえる事だしお風呂入って今日も一日頑張りますかー！」
「僕は朝一番に射精させられた上に朝ご飯まで強奪されて既に元気が足りないんだけどね……」
んふっ♥
にちっ♥
ビクンッ♥
ビクンッ♥

「なんだお前ら―!!このわが許昌学園Aランクの曹仁子様と知っての狼藉か―!」
ズッ
「こんなよわっちいのにAランク?胸のサイズの間違いじゃねえか…?」
ズッ
「うぐっ…胸もBランクはあるわ―い!」
「こんなだっさいスポブラしててAもBもあるかよ、さっさとひっぺがそうぜ」
くぱぁ…

「い、今なら許してやるから私が本気を出す前にやめておけ……」
んっ
「……てきとーに捕まえてきたけど
こんなガキだとなんか損した気分だな…」
「なっ……てし、失礼な奴らだ！」

「おっ？いっちょまえに濡れてきてるじゃねえか…」
「闘士ってやつぁどいつもこいつも淫乱だなぁ」
じっ…
「ち、ちがっ……うぐっ」
《こ、怖くてちょっと漏らしたなんて言えない…》
じわ…

「それじゃあそろそろ始めますか！」
「くそホースパッツ破くなぁ…！」
ビリッ
ビリッ

「うあっ……な、なんだそれ……」
「おいおい、今からお前と合体するおちんぽ様だぞ？」
ひッ
「ちっちえマンコだしちょっと痛いかもしれないが…」
「やめっ……やめろぉ！」
アッ…

あッ
ズボッ

「ぐっ……くそっ……な、なんだこの程度か……！」
「こんな粗チンじゃ痛くもかゆくもないな……！」
ビクッ
ビクッ
ビクッ
「ほう…自称Aランク様がいってくれるじゃねえか？」
「なら手加減は必要ねえな」
ヌチュッ…

「がっ、はぁ……あっあっあっ」
おッ
あッ
パンッ
パンッ
「このマンコギチギチに締め付けてきていい具合だぜ…
マンコだけは特Aランクだな」

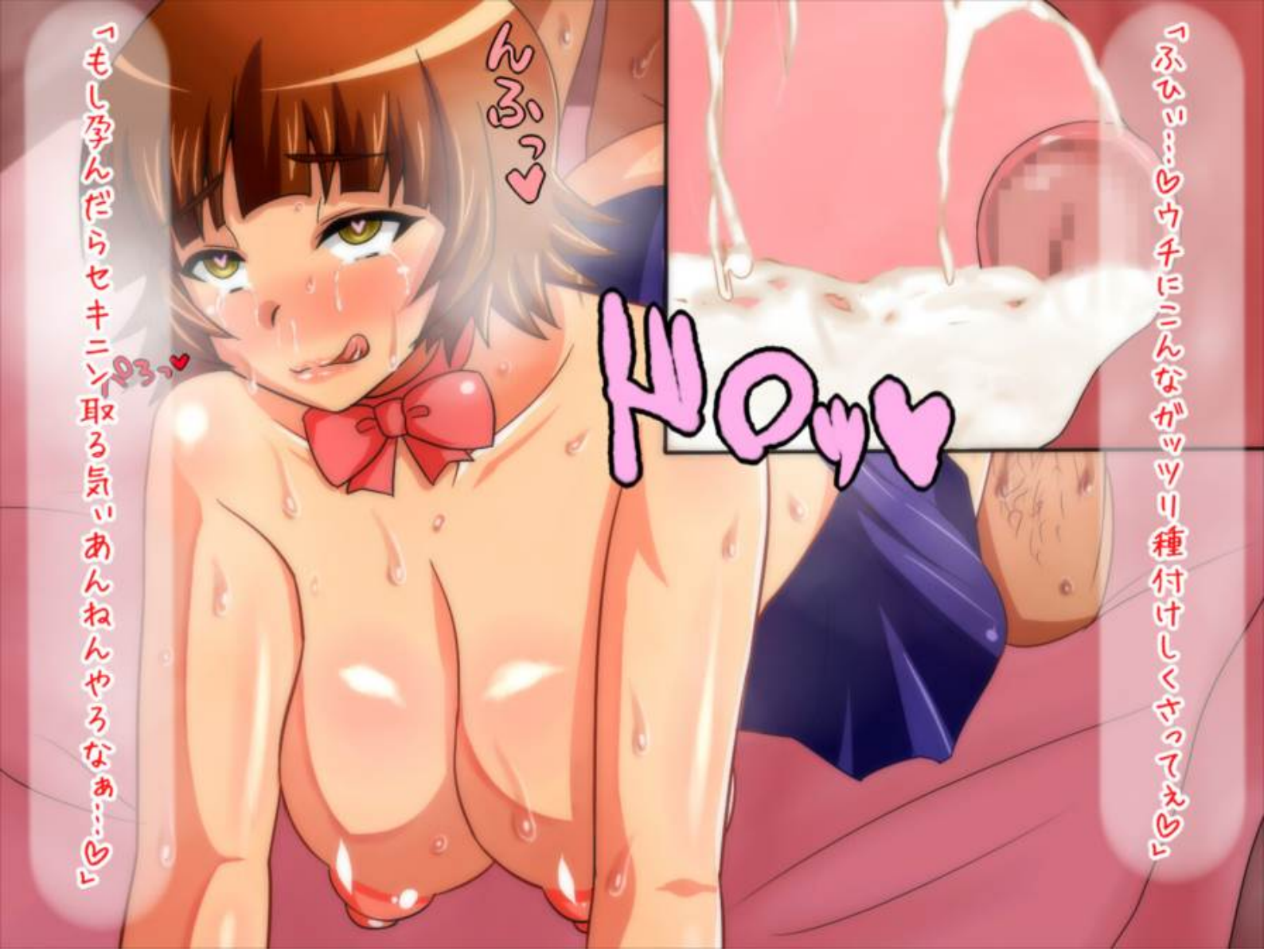
「はぁ～～ぐぅ～んあぁ～」
「はぁはぁはぁ！よっしゃあ、膣中で出すぞぉ…！」
はっはっはっはっ
あッ
どクッ♥
どクッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
「えっ……ばかぁ！膣中はやめろぉ！赤ちゃんできちゃうだろぉ！」
「知るかよバカ！うおぉぉぉぉ！！」

あ～っ♥
んあぁ
ぴゃるるっ♥
ブルるん♥

『ひどっ…ぶれ…』
「ふぃ～ザーメン出してすっきりしたぜ」
はぁ♥
はぁ♥
ぞくぞく
ぞくぞく
ぞくぞく
『うあぁ…くそぉ、覚えてろよぉ…』
「なーに言ってんだ、このまま帰すわきゃねーだろ」
「しばらくは共同肉便器として働いてもらうぜ？
許昌学園の自称Aランクさんよぉ？」
ドプッ
ドプッ

「アカンアカンあかんてぇ♡♡」
「ウチのおま○こバカになってまうぅ♡」
「ガバガバおま○こでアンタ専用になってまうからぁ♡♡♡」
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
はッ♡
あッ♡
んぁっ♡

「おおぉぉぉぉぉぉぅ♡♡」
ビュッ
ビュッ
「ザーメンきてるぅぅぅぅぅぅぅぅぅ♡♡♡♡」
ビュッ
おッ
んぁー♡♡♡♡♡


「ふひぃ…♡ウチにこんなガッツリ種付けしくさってぇ♡」
ドクッ♥
んふっ♥
「もし孕んだらセキニン取る気いあんねんやろなぁ…♡」
ぺろっ♥

お腹もだいぶ大きゅうなってきたなぁ……♡
へろっ
ボテッ
アナュッ…
アンタの絶倫ち〇ぽであんだけ中出しセックスしとったら
まあ…こうなるわなぁ♡

あんっ♥ふっ♥ウチのマ○コが乾く暇もないくらい
ズコバコしくさってん♥
ビクッ♥
ズプッ
ズプッ
ウチはアンタみたいな性欲魔人じゃないっちゅーねん♥
ホンマもぉ……♥

んおおおおぉぉぉぉぉ♡ふぁっ♡♡
ふとぉ♡アンタの極悪おち○ぽささるぅ♡
このぉ…♡ウチがボテ腹になってからち○ぽの固さ増してんでっ♡
イイ趣味してんなぁほんまぁ♡♡♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡

んおぉぉぉぉぉぉふぁっ♡♡
あんあんっ♡あぁぁぁぁぁっ♡♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
あかんっ♡もうウチいってまうぅぅぅぅ♡♡
ザーメンほしいっ♡ザーメンいっぱい注いでほしいんやぁ♡
いっしょにぃ♡いっしょにイってぇ♡♡

ぴゅるるっ♡
ぴゅっ♡
ぴゅるっ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
くぃっ
くひぃ♡んほおおぉぉぉぉぉ♡♡♡

ふひぃ…♡くおおぉ……♡♡
ビクッ
ビクッ
むわっあ…♡
いっぱいでたぁ…♡お腹の子ぉびっくりしてまうやろぉ……♡
ウチをこんな淫乱に変えよってぇ♡
こんな身体にした悪いち○ぽにまだまだお仕置きしたるでぇ…♡

「さっさと終わらせろ…こんな行為は虫酸が走る…！」
「おっと…そんな態度でいいのかな？劉備ちゃんの首をはねちゃうよ？」
「くっ……」
「しかし勇猛果敢で知られる関羽殿も乳首は引っ込み思案とはねえ」
「…そんなことはどうでもいいだろう、放っておいてくれ」
パシッ
パシッ

「んぶっ！んんっ！？」
ぐぷっ♥
パンッ
パンッ

「うるさい口はちんぽで蓋しといてやるよ…」
「んんっ！んぐぐぐっ！」
《ぐっ、呼吸が……！》
ちゅぷ
ちゅぷ
「ん…？こいつ乳首勃起してんじゃねえか」
「乱暴にされたほうが興奮するってか？いいシュミしてるぜ」
《そんな馬鹿な…
この私がこんな扱いを受けて興奮してるなどと…！》
「そんなド変態の関羽殿にはザーメンをプレゼントだ！」
「ちゃんと飲み干せよ…！くっ！！」
パシッ
パシッ

「んおっ♡んぶぅぅぅっ♡」
ビクッ
ビクッ

「おっと、お前にやられた同士の恨みはこんなもんじゃないぜ？」
「劉備玄徳を返してほしくば明日も同じ時間に来るんだな」
ヌルレ
ヌルレ
HOッ♥
「んぶぅ……こふっ…」
《玄徳…私が必ず助け出す、無事でいてくれ…》

「くくっ、見事なボテ腹だなぁ」
「愛しの劉備ちゃんがこれを見たらどう思うかね…？
…おい！舌休めてんじゃねぇーぞ！」
んっ♥
ボテッ♥
パシッ
「じゅるっじゅるるっ、ぬぽっぬぽっ♥」
「しょせん関羽もただのメスだったということだ。ざまあねえな」
「ぬぶっぶっ♥ずゅるるるっ♥♥」
「うるふぁい♥んぶっ、かならずころしてやるっ♥♥」

「こんなカラダになってどう戦うのかぜひご指南願いたいね…」
「おっ♡んほぉ♡」
じんじん
スッ♡
ぺろっ
パン!!
パン!!
「乳首ほじったらすぐおっ効てるくせに説得力ないぜ?」
「とっくにお前のマンコは陥落してるんだよっ!
おらっメスイキさせてやる!ザーメン受け止めろっ!!」
「おおおっ♡はげしいっ♡マンコいくぅ♡」

「ぐぅっ♡んほおぉおぉぉ♡♡♡」
ビュクッ
ビュクッ

「へっ、武人としてのプライドもクソもねえなあ」
「ガキを産んでもずっと俺らの肉便器として使ってやるからな…？」
んふっ♥
ダラ
ダラ
HOッ♥
「ふひい…♡んぶぅ♡♡」
（玄徳……♡すまない、こんな私を許してくれぇ♡）

許昌学園が堕ちて半年…
学園内は酒池肉林の場と化していた。
おぅん♡ふぅん♡おおぉおぉん♡
あッ♡
ボテッ♡
ズプッ
ズプッ
これが元特Aランクのマンコか…ずりぶんガバガバじゃねえか
しゃーねーべ…俺らが毎日輪姦してるんだからさ。
そりゃあ特Aランク様のマンコもアナルもガバガバにならあな

んぅ…絶対孟くんは帰ってくる…！
私はそれまで耐えるだけ……！くぅ♡
しぁ♡
ズプッ
ズプッ
おーおー頭首の幼なじみはいうことが健気だねえ
ち○ぽの先から涙がでてくらあ

くっ……！おおぉおぉん♡お、おくぅ……♡

ほぉっ♡

おッ♡

ビクンッ

ビクンッ

天下に名高い力自慢の許猪様も
俺らのち○ぽに調教されてこのざまだ…

ズンッ

もし頭首が帰ってきても
こんな大きなボテ腹揺らして戦えると思ってるのか？

私の心は孟くんと共にある…！
どんなことがあっても戦ってみせる…！
どくん♥
ぎゅぷっ♥
んぐっこお！？
その減らず口もち○ぽで蓋してやるよ、嬉しいだろ？

んほぉ♥じゅるるるるっ♥ごほっごほっ

そういやさっき聞いた話なんだが…ふんっ！
曹操の野郎他県に逃げたらしいぜ

〈……えっ？〉

ふーん……つまりこの学園の奴らは見捨てられたってことか
お気の毒様だねえ

俺らからしたら肉便器が確保できて結構なことだがな…
おらっ！もっとマンコ締めろっ！

ふぁっ♥おおおぉおぉぉん♥

お前ももう楽になれよ
そんな汚れた身体じゃ誰も受け入れてくれねえぜ？
女の悦びを享受してるだけでいいんだ……イイ話だろ？

ぬぢゅ♥
あんっ♥
んぐ～～っ♥
ぬっこぬっこ♥
どくどく
パンッ♥

んぉ♥わ、私は……くぅん♥
うるせえ！おらっさっさと堕ちろボテ腹肉便器！

くううぅぅぅん♥鬼ピストンらめぇぇぇぇ♥
おちんぽください♥
許豬の哀れな雌豚マンコにザーメン恵んでください♥
赤ちゃんのいるお部屋に
いっぱいいっぱい注いでください♥
お尻からせーしあふれるくらい
いっぱいいっぱいいっぱい気持ちよくなってください♥♥♥

パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥

んほおぉぉぉぉぉぉぉ♡♡
ビュクッ♡
ビュクッ♡
ビュクッ
ビュクッ
ドプッ♡
子宮にザーメン叩きつけられてイっくぅぅぅぅぅぅ♡

んおぉぉぉぉぉ…♡♡んほぉ♡♡♡
孟くん……ごめんね……♡
だっておち○ぽ気持ちいいから……♡
おち○ぽには勝てなかったよ……♡♡
ぬるぅ…♥
コイツももう堕ちたな……
次は司馬懿とかいうクソ生意気な女も調教してやるか

むちゅ
むちゅ
「ねえ……これでホントに強くなるんだよね？」
「あぁ、ホントだホント。そもそもやって損はないだろ？」
「むぅ、確かにそうだけど」
闘士ってやつはどいつもこいつもチョロいと聞いてはいたがここまでとはな…。
純朴そうなメスガキだし徹底的に身体に教えてやるか。

『んっ…ふぁっ』
「ほらほら、これぐらいで参ってるようじゃ強くなれないぞ？」
ぬちゅ
ぬちゅ
ぬちゅ
「誰がこれくらいでっ…ちょっと驚いただけだよっ」
（鍛えてるだけあって締りはバツグンだな…いい拾い物だぜ）

빌기!!
빌기!!

「ふぅ…今日のところはここまでだ。また明日特訓してやるよ」
「っ……もう終わり…？なんか変な感じ……」
「もぉ、ちゃんとやってよね！ボクは強くならなきゃいけないんだから！」
ドクッ♥
「あぁ、期待しといてくれ」
（心配しないでも孕むまで犯しまくってやるよ…くく）

「あんっ♡あぁっ♡んぁ♡」
ぶるんっ
ぶるんっ
パンッ♡
パンッ♡

「ねえ…ぬちゅ♥これでボクって強くなってるのぉ？」
「ああ、母は強しって聞いたことあるだろ？」
んっ♥
んあ♥
ちゅぷ♥
ボテッ♥

「こうして母乳も出てるし完璧な母になれるぜ？」
「んぉ♡んちゅ♡ボクなんてまだまだだよぉ♡」
「だからもっとおちんぽっ♡おちんぽちょうだいっ♡♡」
ぢゅぢゅっ♡
ぺろっ♡
ぷるっ♡
もみ♡

「ほんと熱心だよなぁ馬超は」
「トーゼンだよっ♡ふぁ♡」
「ボクにはしなきゃいけないことがあるんだからっ」
んっ♡
んっ♡
スッ♡
パンッ♡
パンッ♡

「んほぉ♡おおぉ～♡♡♡」
ほぉっ♡
ドっ♡

「んひぃ♡不意打ちザーメンずるいっ♡♡こんなのすぐおちんぽに負けちゃうよぉ♡♡」
「なんだ、もう特訓はおしまいにするか？」
んふっ♥
ヌルヌル
ヌルヌル

「ぬちゅレれろぉレレボクを甘く見ないでよねレまだまだイけるよっレ」
「それじゃあ一日中ブチ犯してやるとするか……！」
「……っレんちゅレんぉレレ師匠ぉよろしくお願いしますっレレ」
はぁ♥
あッ♥
ヌルレ
ヌルレ
ダラ
ダラ

「やめてっ！やめて下さいっ！」
「……ぴーぴーガキみてえにうるせえが、身体の方だけは立派なモンだなぁオイ？」
…私はお外で本を読んでいたところを敵対勢力の方に攫われたみたいです。
ベッドに連れて行かれて、裸にされて……うぅ、関さぁん
むち♥
むち♥

「さぁて、成都の頭首様のマ○コの具合を確かめてやるとするかな」
そういって彼は私のアソコに反り立ったアレを押し付けてくる。
「本当にやめてください！私だっておこりますよ」
…本当はすごく怖い。
あんな大きなモノが私の中に入るわけがないですよぉ…。
でもでも、なんとかしてやめさせ……

「んぎぃ！いったぁい……！」
ズンッッ
ぬぷっ♡

「はっはっ……！あぁ……！！、いたいですぅ……！」
「おおう、キツキツだな。
関羽の奴とヤっててユルユルマ○コになってるかと思ってたぜ」
ビクッ!!
ビクッ!!
ぎゅ
ぎゅ

熱々の鉄棒を入れられたみたい…下腹部が異常に熱くなってます…
「無駄にでかい乳しやがって…揉み甲斐のある乳だ」
「んぅ……！おっぱい触るのやめてえ……」
もみ
ぐー
「じゃあそろそろ動いてやるか。一緒に気持ちよくなろうぜ？」
ビクンッ
ビクンッ

「んぅ……！ふぅ、ふぅ……」
なんとか痛みを和らげるよう呼吸を整えてっ……！がまんがまんですっ
パンッ
パンッ
ぐぽんっ♥
ぐぽんっ♥
「あぁ、この初心なマ○コを蹂躙する感覚…たまんねぇぜ」

……もう、私にできる唯一の抵抗は
この人の喜ぶような反応をしないことしかないですっ！
私だって伊達に張さんと稽古してませんよっ！
「なんだ？急に静かになっちまって…ま、別にいいけどな」
「さて…いつまで声を我慢できるかな？」

「おおぉぉぉん♡ほぉ♡んうぅぅぅ♡♡」
「1分保たずに陥落か……オマエ我慢よえぇなぁ」
「こっこんなの絶対おかしいですぅ♡なんでこんな気持ちいいんですかぁ♡」
「それは俺の能力に関係しているんだが…そのうちわかるさ。そらぁ！」
パンッッ
パンッッ
パンッッ
パンッッ

「あぁ♡あっあっあっ♡♡んほぉ♡」
「そろそろラストスパートだ！膣中にだすぞぉ！」
「……えっ、だめっ！だめですっ！あかちゃんできちゃ……」
パンッッ♥
パンッッ♥
パンッッ♥
ぶべぶ♥
「なら孕めばいいだろこの淫乱ウシチチ娘が！だすぞおぉおぉぉ！」
「だめだめだめだめだめぇ♡あんっ♡♡」

「おおおぉおぉおん♡膣中に出されてっ♡イっくうぅぅぅぅぅ♡♡」
ぶるるっ♡
ぺちゃっ♡
ぶるっ♡
どくっ♡
どくっ♡
ぉ〜〜〜っ♡

「あ～出る出る……」
「んおっ……♡ふぅん♡」
グツグツに煮えたシチューみたいなのが子宮に入ってきてますぅ……♡
ぴゅ♡
びんっ♥
びんっ♥
ポウ
お腹の下が……くぅぅ♡なんだかこそばゆい……♡♡
HOw♥

「わかるか？それは淫紋っていってな。
まぁ性感を上昇させたり、様々な効果があるシロモノだ」
「どんな豪傑の生まれ変わりだろうが俺のち○ぽを突っ込まれれば
もうソイツは俺の肉便器に早変わりってわけだ」
「私は……成都の頭首です……ぜったいにまけませんっ！」
「乳首こんなに勃起させといて説得力のカケラもないぜ…？」
「まあせいぜい愉しませてくれよな」
…関さん、私頑張りますから
関さんが来るのを信じて耐えてみせますからっ…！

106min
REC
TCG 00:53:16:22
HQ 60P
……それは差出人不明のUSBだった。
玄徳が行方不明になって早1ヶ月。
中のデータを再生して現れた人物は見間違えるはずもない、
我が頭首劉備玄徳だ。
「関さぁん、張さぁん見てますかぁ？」
「私い♡御主人様にオンナの本当の喜びを教えてもらってえ♡」
「今すっごい幸せなんですぅ♡」
……しかしその口から紡がれる言葉は
我らが知ってる玄徳とは到底かけ離れていた。
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

106min
REC
TCG 00:53:16:22
039min
HQ 0P
「ふふ…劉備は俺の便所豚だからな」
「はいっ♡こうやってえ…御主人様のおち○ぽを擦り付けられただけでえ♡」
「乳首がびんびんになって……お○こからマン汁どぷどぷ出てきてえ♡」
ぷるっ♡
びんっ♡
びんっ♡
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

106min
REC
TCG 00:53:16:22
039min
HQ 10P
「おっほぉ♡んおおっ♡」
「そろそろギャラリーが退屈しちゃうだろ？」
どくっ♡
「ごめんなさぁい…♡御主人様のおち○ぽふとぉい…♡淫紋さんもぎゅ～って喜んでますぅ♡」
ズンッ
ポゥ…
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

106min
REC
TCG 00:53:16:22
039min
Q60P
「あんっ♡関さんっ♡セックスってすごいんですよぉ♡」
「こんな快感、本の知識だけじゃわからなかったです♡
中出しは特に気持ちいいんですぅ♡」
ぱんぱん
ぱんぱん
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

106min
REC
TCG 00:53:16:22
HQ 0P
39min
「あぁあぁんほぉふぁ」
「劉備のマ○コは締りがバツグンだなぁ」
「はいぃ御主人様のザーメン排泄便所豚として役に立てるなら光栄ですっ」
「劉備のおま○こ、壊れるくらいに使ってあげてくださぁい」
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

106min
039min
REC
TCG 00:53:16:22
HQ 60P
「ふふ……じゃあ遠慮無くたっぷりと子宮に中出ししてやるとするか！」
「お願いしますっ♡劉備の淫乱な便所マ○コに御主人様のザーメン恵んでくださいっ♡」
「……結果として孕むかもしれないぞ？」
「いいんですっ♡この身体全て御主人様のおち○ぽに奉仕しますっ♡孕ませてくださぁい♡」
「劉備の全て、御主人様のモノで塗りつぶしてくださいっ♡♡」
「孕め劉備！孕め、孕めぇ！」
「おおぉぉんぴぃぃぃぃぃ♡おま○こぐりぐりぐり

「おほっ♡んほおぉおぉぉぉぉぉぉ♡♡♡」
ほおっ♡
んぉーっ♡
ぶるっ♡
ぺちゃっ♡
ぶるっ♡
どくっ♡
どくっ♡

「御主人様の特濃ぎぁめん…♡劉備の子宮をいっぱいにしてます……♡」
どくっ♥
どくっ♥
どくっ♥
HOw♥

「ほら、この動画を見てる奴らに言うことはないのか？」

「あぅ……、そうでしたぁ♡いえーい、ぴーすぴーすっ♡」

「関さんも張さんもお♡御主人様にオンナの喜びを教えてもらいましょうよぉ♡いい考えでしょう♡♡」

……私達は今、とてつもなく呆けた顔をしているだろう。

悪い夢でも見ているのだろうか。

もう私の知っている劉備玄徳はどこにもいなかった。

天下覇業を夢見ていた日々がフラッシュバックのように流れていく。

天下を逃したことなどより、

玄徳が変わってしまったことがただ、悲しかった。

……今、私の頬を伝っていくモノはなんなのだろう。

106min
REC
TCG 00:53:16:22
039min
QOP
玄徳とその男の動画ファイルは毎日送られてきた。
もう合計200本以上になるだろう。
私は死んだ心でいつものように動画ファイルを開く。
玄徳の姿を見れるのはその瞬間しかないのだから。
「関さんっ、今日も見てくれてますかぁ?」
「私と御主人様の赤ちゃんも随分大きくなってきましたよ…♡」
「劉備感激ですっ」
いろっ♡
ボテッ♡
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

106min
REC
TCG 00:53:16:22
039min
HQ 60P
ほぉっ♥
おっ♥
「おっ♥んほぉ♥御主人様ぁ…♥わたしまだしゃべってぇ♥んひぃ♥♥」
「便所がうるせぇなぁ……ゆるくなったマ○コしっかり締めろ豚！」
ごんふぅ♥すみませんっ、しっかりおま○こぎゅ～ってしますぅ♥♥」
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

106min
REC
TCG 00:53:16:22
0:9min
HQ 60P
「はひぃ♡おぼれるぅ♡♡ザーメンでおぼれちゃいますぅ♡♡♡」
「おぉん♡そんなっ♡はげしくすると♡♡赤ちゃんびっくりしちゃいますぅ♡♡」
「流れたらそれまでってこった。おらっ、ザーメンだすぞ！」
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

「んおっ……♡んっほおおおぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉ♡♡♡」
いぐぅ♡
なーーっ♡
びくっ♡
ぺちゃっ♡
ぷるっ♡

「はひっ……♡ふひい♡はぁ……♡はぁ……♡」
「もぉ……♡あたま、おかしくなるぅ……♡♡」
ぬるぅ…♥
あぁ♥
ビクッ♥
ぬるぬる
ぬるぬる♥

106min
REC
TCG 00:53:16:22
HQ 60P
(39min
……胸は肥大化し、乳輪はどす黒くなり、
お腹が異常に出てきた玄徳のカタチをした何かは最後に
私の出産も録画するみたいですよっ♡ぜひみてくださいねっ♡♡」
と言い残し……私は……。
ダラ
ダラ
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

「やめてっ！やめて下さいっ！」
「……ぴーぴーガキみてえにうるせえが、身体の方だけは立派なモンだなぁオイ？」
…私はお外で本を読んでいたところを敵対勢力の方に攫われたみたいです。
むち♥
むち♥
ベッドに連れて行かれて、裸にされて……うぅ、関さぁん

「さぁて、成都の頭首様のマ○コの具合を確かめてやるとするかな」
そういって彼は私のアソコに反り立ったアレを押し付けてくる。
「本当にやめてください！私だっておこりますよ」
…本当はすごく怖い。
あんな大きなモノが私の中に入るわけがないですよぉ…。
でもでも、なんとかしてやめさせ……
ギン
ギン

「んぎぃ！いったぁい……！」
ズンッッ
ぬぷっ♡

「はっはっ……！あぁ……！！、いたいですぅ……！」
「おおう、キツキツだな。
関羽の奴とヤってててユルユルマ○コになってるかと思ってたぜ」
ビクッ!!
ビクッ!!
ぁ…
ぁ…

熱々の鉄棒を入れられたみたい…下腹部が異常に熱くなってます…
「無駄にでかい乳しやがって…揉み甲斐のある乳だ」
「んぅ……！おっぱい触るのやめてえ……」
もみ
ぎゅー
ぎゅー
「じゃあそろそろ動いてやるか。一緒に気持ちよくなろうぜ？」
ビクンッ
ビクンッ

「んぅ……！ふぅ、ふぅ……」
なんとか痛みを和らげるよう呼吸を整えてっ……！がまんがまんですっ
パンッ
パンッ
ごぷんっ♥
ごぷんっ♥
「あぁ、この初心なマ○コを蹂躙する感覚…たまんねぇぜ」

……もう、私にできる唯一の抵抗は
この人の喜ぶような反応をしないことしかないですっ！
私だって伊達に張さんと稽古してませんよっ！
「なんだ？急に静かになっちまって…ま、別にいいけどな」
「さて…いつまで声を我慢できるかな？」
パーンッ
パーンッ
パーンッ

「おおぉぉぉん♡ほぉ♡んうぅぅぅ♡♡」
「1分保たずに陥落か……オマエ我慢よえぇなぁ」
「こっこんなの絶対おかしいですぅ♡なんでこんな気持ちいいんですかぁ♡」
「それは俺の能力に関係しているんだが…そのうちわかるさ。そらぁ！」
パンッッ
パンッッ
パンッッ
パンッッ

「あぁ♡あっあっあっ♡♡んほぉ♡」
「そろそろラストスパートだ！膣中にだすぞぉ！」
「……えっ、だめっ！だめですっ！あかちゃんできちゃ……」
パンッッ♥
パンッッ♥
パンッッ♥
「なら孕めばいいだろこの淫乱ウシチチ娘が！だすぞおぉおぉぉ！」
「だめだめだめだめだめぇ♡あんっ♡♡」
もぉ♡

「おおおぉおぉおん♡膣中に出されてっ♡イっくうぅぅぅぅぅ♡♡」
ぶるっ♡
ぶるっ♡
ぶるっ♡
どくっ♡
どくっ♡

「あ～出る出る……」
「んおっ……♡ふぅん♡」
グツグツに煮えたシチューみたいなのが子宮に入ってきてますぅ……♡
ぴゅ♡
びんっ♥
びんっ♥
ポウ
お腹の下が……くぅぅ♡なんだかこそばゆい……♡
HOw♥

「わかるか？それは淫紋っていってな。
まぁ性感を上昇させたり、様々な効果があるシロモノだ」
「どんな豪傑の生まれ変わりだろうが俺のち○ぽを突っ込まれれば
もうソイツは俺の肉便器に早変わりってわけだ」
「私は……成都の頭首です……ぜったいにまけませんっ！」
「乳首こんなに勃起させといて説得力のカケラもないぜ…？」
「まあせいぜい愉しませてくれよな」
…関さん、私頑張りますから
関さんが来るのを信じて耐えてみせますからっ…！

……それは差出人不明のUSBだった。
玄徳が行方不明になって早1ヶ月。
中のデータを再生して現れた人物は見間違えるはずもない、
我が頭首劉備玄徳だ。

「関さぁん、張さぁん見てますかぁ？」
「私い♡御主人様にオンナの本当の喜びを教えてもらってえ♡」
「今すっごい幸せなんですぅ♡」

……しかしその口から紡がれる言葉は
我らが知ってる玄徳とは到底かけ離れていた。

106min
REC
TCG 00:53:16:22
039min
HQ 0P
ふるふる
ぴんっ♥
ぴんっ♥
「ふふ……劉備は俺の便所豚だからな」
「はいっ♡こうやってえ……御主人様のおち○ぽを擦り付けられただけでえ♡」
「乳首がぴんぴんになって……お○こからマン汁どぷどぷ出てきてえ♡」
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

106min
REC
TCG 00:53:16:22
039min
HQ 10P
「おっほぉ♡んおおっ♡」
「そろそろギャラリーが退屈しちゃうだろ？」
どくっ♡
「ごめんなさぁい……♡御主人様のおち○ぽふとぉい……♡淫紋さんもぎゅ～って喜んでますぅ♡」
ズンッ
ポゥ…
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

106min
REC
TCG 00:53:16:22
039min
Q60P
「あんっ♡関さんっ♡セックスってすごいんですよぉ♡」
「こんな快感、本の知識だけじゃわからなかったです♡
中出しは特に気持ちいいんですぅ♡」
ぱんぱん
ぱんぱん
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

106min
REC
TCG 00:53:16:22
HQ 0P
39min
「あぁあぁんっ♡ほぉっ♡ふぁっ♡♡」
「劉備のマ○コは締りがバツグンだなぁ」
「はいぃ♡御主人様のザーメン排泄便所豚として役に立てるなら光栄ですっ♡♡」
「劉備のおま○こ、壊れるくらいに使ってあげてくださぁい♡」
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

106min
039min
REC
TCG 00:53:16:22
HQ 60P
「ふふ……じゃあ遠慮無くたっぷりと子宮に中出ししてやるとするか！」
「お願いしますっ♥劉備の淫乱な便所マ○コに御主人様のザーメン恵んでくださいっ♥」
「……結果として孕むかもしれないぞ？」
「いいんですっ♥この身体全て御主人様のおち○ぽに奉仕しますっ♥孕ませてくださぁい♥」
「劉備の全て、御主人様のモノで塗りつぶしてくださいっ♥♥」
「孕め劉備！孕め、孕めぇ！」
「おおぉぉぉんぴぃぃぃぃぃ♥おま○こぐりぐりぐり

「おほっ♡んほおぉおぉぉぉぉぉぉ♡♡♡」
ほおっ♡
んぉーっ♡
びくっ♡
ぺちゃっ♡
ぺろ♡
どくっ♡
どくっ♡

「御主人様の特濃ぎぁめん…♡劉備の子宮をいっぱいにしてます……♡」
どくっ♥
どくっ♥
どくっ♥
HOw♥

106min
039min
REC
TCG 00:53:16:22
HQ 60P
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2
もみ
もみ
「ほら、この動画を見てる奴らに言うことはないのか？」
「あぅ……、そうでしたぁ♡いえーい、ぴーすぴーすっ♡」
「関さんも張さんもお♡御主人様にオンナの喜びを教えてもらいましょうよぉ♡いい考えでしょう♡♡」
……私達は今、とてつもなく呆けた顔をしているだろう。
悪い夢でも見ているのだろうか。
もう私の知っている劉備玄徳はどこにもいなかった。
天下覇業を夢見ていた日々がフラッシュバックのように流れていく。
天下を逃したことなどより、
玄徳が変わってしまったことがただ、悲しかった。
……今、私の頬を伝っていくモノはなんなのだろう。

106min
REC
TCG 00:53:16:22
039min
QOP
玄徳とその男の動画ファイルは毎日送られてきた。
もう合計200本以上になるだろう。
私は死んだ心でいつものように動画ファイルを開く。
玄徳の姿を見れるのはその瞬間しかないのだから。
「関さんっ、今日も見てくれてますかぁ?」
「私と御主人様の赤ちゃんも随分大きくなってきましたよ…♡」
「劉備感激ですっ」
いろっ♡
ボテッ♡
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

106min
REC
TCG 00:53:16:22
039min
HQ 60P
ほぉっ♥
ぉっ♥
「おっ♥んほぉ♥御主人様ぁ…♥わたしまだしゃべってぇ♥んひぃ♥♥」
「便所がうるせぇなぁ……ゆるくなったマ○コしっかり締めろ豚！」
ごんふぅ♥すみませんっ、しっかりおま○こぎゅ〜ってしますぅ♥♥」
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

106min
REC
TCG 00:53:16:22
0:9min
HQ 60P
「はひぃ♡おぼれろぅ♡♡ザーメンでおぼれちゃいますぅ♡♡♡」
「流れたらそれまでってこった。おらっ、ザーメンだぞ！」
「おぉん♡そんなっ♡はげしくすると♡♡赤ちゃんびっくりしちゃいますぅ♡♡」
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

「んおっ……♡んっほおおおぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉ♡♡♡」
いぐ♡
な～～っ♡
びくっ♡
ぺちゃっ♡
ぺろ♡

「はひっ……♡ふひい♡はぁ……♡はぁ……♡」
「もぉ……♡あたま、おかしくなるぅ……♡♡」
ぬるぅ…♥
あぁ♥
ビクッ♥
ぬるぬる
ぬるぬる♥

106min
REC
TCG 00:53:16:22
(39min
HQ 60P
……胸は肥大化し、乳輪はどす黒くなり、
お腹が異常に出てきた玄徳のカタチをした何かは最後に
私の出産も録画するみたいですよっ♡ぜひみてくださいねっ♡♡
と言い残し……私は……。
ダラ
ダラ
TLCS STD
On
Full Auto
SHT:OFF
CH1
CH2

あはっ、こーんなにおちんちんおっきくしちゃって♡
キミみたいな下級闘士がこの私のオマンコ見ながらシてもらえるなんてすっごいラッキーでしょう？
んっ♡
ギュン
ギュン

それそれ～♡敏感なトコをこ～んな乱暴にされても感じちゃうんだぁ…♡
ふふっ♡
キミみたいなザコ闘士に私のオマンコは勿体無いわね♡足だけでイっちゃいなさい♡
ぐり
ぐり

あぁ♪
あんっ♡もぉ…？
ビュウッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ

もちろんキミがぜ～んぶ 舐めとってくれるのよね？
ぺろっ
んふっ♥
もう、ばっちぃ♥
スッゴイ勢いでいっぱい汚れちゃった♥
むわぁ…♪

「くぅ……貴様、殺してやる……！」
「可愛らしい顔から物騒な言葉だねえ…」
俺は南陽四天王の一人、呂蒙とラブホテルにいた。
夜道を歩いていた二人を闇討ちして
その内の一人、左慈元放を人質にしたのだ。
まさか俺みたいな木の端に煮え湯を飲まされるとは
思ってもいなかったのだろう。
あぁ♥
どクッ♥
ズンッ♥

「ヤリマンかと思ったら…案外初心なマ○コじゃねえか」
「くっ……いうなぁ……」
ぬぷっ♥
呂蒙はぎり、と唇を噛み締めて悔しそうにしている。
呂蒙のまだあまり使い込まれていないマ○コは
物欲しげにひくひくと痙攣している。
あの呂蒙を犯せるとなれば、俺の怒張もいっそう固さを増していく。
ふーふー♥
ふーふー♥
どくどくっ

「んあっふぁ……っ」
俺はゆっくりと抽挿を始める。
ヒダヒダが絡みついて俺の気分はさらに高揚してゴッ。
「おにおにっ にっくき敵のちO○ぽだぜ？ 四天王様はビ淫乱だなあ？」
「くそっ そんなあ…そんなはずがねぇー」
もちろん媚薬効果の香を焚いている。副作用もあるしな……。
「うう……キーちゃん……」
「左慈……だっ大丈夫か？」
「あえ キーちゃんに回してやがる……ー」
ぐちゅ
左慈元放は暴れんでみせるが
全身を縛られた状態では自力不足というものだろう。

「左慈元放よぉ…てめえの女は使い心地がいいねえ…」
「あまりにも初心だから手をつけづらかったのかい？色男さんよぉ」
「あああぁあぁっ！てめえええええ！！！！」
「左慈っ…大丈夫だ……この程度私にはなんの問題もないっ」
……そろそろ頃合いだろう。
「へえ……呂蒙ちゃんよぉ、俺のち○ぽはどうだい？」
「ふんっ！何をほざいている！
そんなの気持ちいいに決まっているだろう…♡」
「……え？」
「左慈元放のと比べるとどうイイんだ？」
オマエのち○ぽが私の膣中をえぐってくるっ♡
左慈のじゃ届かないとこまでノックしてくるのぉ♡今までにない快感だっ♡」
「も、もーちゃん……？」
「さ、左慈っ！これは違うんだっ♡おそらく奴のお香の効果で…！」
「それは正解。だが俺の香は
ショージキな事を喋るようになるだけだぜ？」
「左慈元放のはさぞかし粗末なんだろうなぁ…
こんな小娘一人満足させられないとはね」
「うっ嘘をつくなぁ！こんな、こんな事を私が思ってるわけっ……んぅ♡」

ここで俺はストロークを一層激しくする。
呂蒙のたわわなおっぱいがリズミカルに弾みだす。

「あっ♡んぉおぉ♡おおぉおん♡ふっふかいっ♡♡」

「んぅ♡ち○ぽいいのぉ♡
呂蒙のお部屋おっきなち○ぽがごりゅごりゅしてるのぉおぉ♡」

「んぁ♡ちがうううぅう♡ちがうのぉ♡さじぃ……さじぃ……」

「あ……あぁ……」

左慈元放の顔から生気が消えていく。
自分の女にこんなこと言われた日にはショックで立ち直れないだろう。

「おらぁ！堕ちろっ呂蒙……！浅ましい牝豚になれ……！」

「いやぁ♡堕ちたくないぃ♡左慈ぃ……さじぃぃぃ♡♡」

「だめぇ♡いくいくいくいくうぅぅうぅう♡♡♡」

「んひいいいいいいいいんっほおおぉぉぉ

「くひぃ……んおぉ……」
呂蒙のマ○コが今までにない収縮をする。
今までしたセックスの比じゃない絶頂を味わえたは…

「もっとオマエの知らない快感を教えてやるからな…？」
「らめぇ……わたひいもどれなくなるぅ……」

……ふと、左慈元放に目線を落としてみると、
奴はズボンに染みを作ってむせび泣いていた。

あぁ♥
あはぁ♥

一通り奴を見下した俺は、
その後呂蒙と汗だくになりながら何度も中出しセックスを味わった…。